

風車置くならココ

風力発電でシミュレーション・調査

【福岡】福岡市はシミュレーションシステムを使って、風力発電の設置に適した場所や予想発電量を10ヶ四方の単位で割り出す調査を市内全域を対象に実施する。風力発電システムの設置に生かすのが目的。将来は市内事業者や市民による風力発電設置のためのデータとして活用する。2010年度中に風の観測も実施、結果をシミュレーションに反映させて調査の精度を向上させる。



「風レンズ風車」の増設に向けて調査結果を活用

福岡市

調査には九州大学の大学発ベンチャー、リアムコンパクト（福岡市東区）のシミュレーションシステムを使う。同システムは風の方角や強さをアニメーションで分かりやすく表示する。また風力発電を設置した場合の風の上流の地形や植生による風の乱れが分かる。風の乱れは風車に想定外の

向き・強さ・発電量 100㎡単位で

振動を起し故障につながることもあるという。

福岡市は九州大学が開発した「風レンズ風車」と呼ばれる風車を09年12月に市内に4基設置しており、今後も設置を増やす考え。シミュレーション結果がアニメーション表示できることで、風力発電設置に向けた周辺住民への説明に生かせるという。また今回のシミュレーション結果はビルなどの建物情報にも取り込むことで、市街地における風力発電設置の検討にも利用する。

同調査は総務省の「緑の分権改革」推進事業に09年3月に採択された事業の一環。福岡市は風力発電に関する調査のほか、太陽光発電の可能性についても調査する。結果は10年度中にまとめる。